

# Rihoの ドイツ便り

No.52

5ヶ月間の会期中に 1800 万人が訪れた 2000 年のハノーファー万博からちょうど 10 年。万博をきっかけにハノーファー駅は改修され、エキスポプロジェクトと称して学校生物センターなどさまざまな施設に予算が振り分けられ、街中が生き返りました。近距離交通公社のユーストラ (Uestra) の取り組みもそのひとつでした。

近距離交通公社のユーストラは路面電車の路線が 10 線あり、そのひとつを 9 キロ延長してエキスポ会場東口まで乗り入れました。新しく導入された TW2000 型のシルバー車両の路面電車は 144 台で、欧州のエコ基準を満たしているだけでなく、入り口は 1,4 メートルと乗りやすくなっています。エボバスという大型の路線バスは開発当初から市民の声を取り入れ、車椅子やベビーカーがおけるスペースが十分あるなど、社会的にも配慮した作りとなっています。

ユーストラは 2002 年にドイツ連邦大統領による「環境週間」に、唯一の近距離交通会社として招待を受けたり、2008 年には国際環境コンテスト OkoGlobe`08 の「モビリティー」というカテゴリーで賞を受けるなど、環境への取り組みが評価されています。1998 年から路面電車とバスは欧州連合のエコ基準を満たしているほか、2008 年よりソラリスバスは欧州連合で最も高い環境基準 EEV を満たしています。ラインハウゼン車庫には太陽発電装置を設置し、最大 250 キロワットを出力。路面電車ではブレーキを踏むたびに電気が生まれ、走行に必要なエネルギーの 3 分の 1 ほど再生している計算になります。2008 年 7 月よりハイブリッドバス (SOLARIS URBINO 18) も一台走っています。

バスの運転手に対して 2003 年より省エネの運転方を指導しており、これにより天然ガスとディーゼルの消費は年間 10 万ユーロ (1250 万円) の節約となりました。しかも乗客には乗り心地よく、運転手はストレスなく運転できる方法なので、一石三鳥なのだとか。

ハノーファーはエキスポをきっかけにずいぶんインフラ設備が整いました。最終的には赤字だったし、多くの批判も呼んだけれど、今では人々は懐かしく万博を思い返し、あちこちで開かれている万博記念の催しに足を運んでいます。

田口理穂 ごみかんドイツ特派員



## ドイツで子育て♪

保育園の明のクラスで、「正しい食生活プロジェクト」が始まりました。子どもたちは雑誌などから食べ物の写真を切り抜いて、野菜や魚肉類、お菓子と分けて貼ります。何をたくさん食べて、何を少量にすべきか、どういう栄養素があるのか、先生から話をきき、食べ物をテーマにお絵かきもします。先日はジュース絞りをしたそうです。リンゴ、洋ナシ、キウイ、オレンジ、人参、赤ピートを分けて絞り、好みに混ぜて飲み比べです。うーん、健康的。

ところがそのわりには、保育園の給食にはフライドポテトや冷凍ピザ、アイスクリームが出てきます。クリスマスと復活祭にはチョコレートもどっさり。明は甘いものはすべて保育園で覚えました。クラスで健康的な食生活について学んでいても、ドイツの食習慣の中で実践するのはなかなか前途多難です。